

あとから来る者のために
坂村 真良

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分のできる
なにかをしてゆくののだ

令和4年第2回 EM技術セミナー

5月13日にU-net会員対象の第2回EM技術セミナーがオンラインで開催されました。今回、令和4年度U-netユニバーサルビレッジモデルプロジェクトに採択された6つのプロジェクトを紹介する発表がありました。発表内容を抜粋し紹介します。

「横浜 EM ウェルネス構想 “EM ユニバーサルビレッジ横浜”」

あかね台眼科脳神経外科クリニック 院長 杉本 一郎

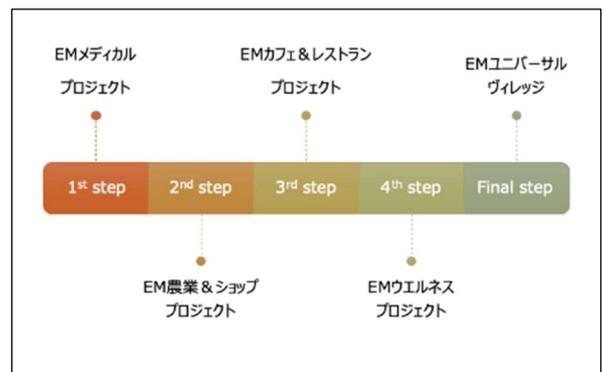
私たちが取り組んでいる横浜 EM ウェルネス構想は、完成まで5つのステップがあります。

最初のステップである EM メディカルプロジェクトについては、クリニックを開業して20年間やってきて来ました。そして、今回、セカンドステップの EM 農業プロジェクトを進めています。これが成功したら EM カフェ・レストランプロジェクト、EM ウェルネスプロジェクトの順に進め、最終的にはそれぞれのプロジェクトを統合した EM ユニバーサルビレッジ横浜をつくりたいと考えています。

私は、比嘉先生より教えて頂いた「高い次元の医療」、すなわち、「病気にさせない医療」を、横浜で提供することを目標にコツコツやってきました。今回、プロジェクトを立ち上げた理由は、医療の現場だけではなく、食の問題、水の問題、空気の問題、もっと言えば、環境の問題も解決しないと、本当の意味でみんなを健康にすることができないからです。

ファーストステップのメディカルプロジェクトでは、腸内フローラや腸内環境の改善指導、自律神経作用を良い状態に改善するための指導など、予防医学に基づき生活・環境・栄養指導を行って来ました。その中で特に私が力を入れているのは「考え方」の指導です。腸内細菌が健康の維持に極めて重要な役割を果たしていること、腸内細菌と腸内環境を良くすることの重要性、脳と腸内細菌がリンクしていることなどを、最新情報に基づいて、「考え方」の指導をすることに一番力を入れています。また、私のクリニックは建てる時点から EM 資材を建築に活用し、清掃にも EM クリーニングを取り入れることで、薬品の臭いもなく、電磁波や化学物質に過敏な方でも違和感なく居ることができます。さらにすごいのは、比嘉先生にご指導を頂いて最新 EM 技術を導入した結果、消費電力の大きい MRI 装置を導入している私のクリニックの電気代が約25%減ったことです。

昨年、比嘉先生に私の横浜 EM ウェルネス構想の夢をお話した際、比嘉先生から「準備が整うまで待っていたら、いつまでたっても進まないの、やれるところからやっつけていきなさい。」とのお言葉を頂きました。そこで、農業プロジェクトをどう始めようかと考えていたら、たまたま、クリニックの地主さんがご高齢で、もう



畑をやめるようなお話をされていると聞いたので、地主さんに畑の事をご相談しましたところ、快く畑を貸して頂けることになりました。

ただし、私たちは農業については素人ですので、比嘉先生からのご指導や EM 研究機構からの技術指導、EM 実践農家さんの優良事例を参考に、最新 EM 技術を取り入れた畑作りを行いながら、まずは農作業に慣れてゆくことから始めています。

畑での栽培が始まれば、医食同源で、食べ物だけで皆を健康にできる場を作り上げてゆき、様々な人たちとコミュニケーションをとり、収穫祭や、食育や環境教育、EM の教育を行って行きたいと思っています。良い EM 野菜が収穫できる様になれば、うかいグループの様な高級レストランに食材を提供する、あるいは、自分達でもカフェやレストランを開くなど、そうした展開を経て、家庭の事情で食事が十分にできない子供たちに食事を提供する場をつくること等をサードステップとして行います、そこまで、繋げてゆくのが農業プロジェクトだと思っています。

地主さんから借りた畑はクリニックから歩いて行ける距離にあります。先日、畑を耕しながら、四隅と真ん中には穴を掘って EM グラビトロン炭、塩、ポカシを入れました。畑の脇に 200L タンクを 2 つ設置し EM 活性液を仕込んで、十分に散布できる様にしています。畑はこれから EM グラビトロン炭と EM 活性液を散布し、畝を作りマルチを敷く作業をおこないます。現在の課題は圧倒的なマンパワーの不足と作業できる日の不足です。私はクリニックの休みの日を使って作業を進めていますが、なかなか進んでいません。私たちのプロジェクトにご関心がある方で、作業に参加可能な方がおられましたら、ぜひ、安心安全な食の生産、微生物との共存で人と地球をきれいにするプロジェクトにご参加、ご協力をお願いいたします。



「めぐる蕪生プロジェクト」

めぐる蕪生プロジェクトチーム リーダー 濱野 貴子

私はオランダ在住で美術作家をしております。今、高知県の香美市香北町蕪生野にあります。この土地には曾祖母が残した古民家、田畑と山が少しあります。このような田畑や古民家をそのままにしておけば、不耕作地が増え、山は荒れ、古民家は廃墟となります。しかしながら、私には先人たちが感謝と畏敬の念をもって自然と共生し、恩恵を受け取ってきた環境を蘇らせ、これからの世代が担っていく社会と地球へ貢献したいという想いがあります。この想いを今回、共有してくださる方々と一緒に、アートプロジェクトとして、新しく楽しい形にしてゆき、そこから生まれる価値観を、県境や国境をこえて共有できるような世界観を作ることを「めぐる蕪生プロジェクト」は志しています。

このプロジェクトは、蕪生野地区の住民(約 500 人)および未来の住民、そして過去の住民、つまりご先祖さまたちのためにもつくるモデルです。中でも未来を担う子供たち、若い世代への想いを、つくる側が基軸として共有し、つくるモデルです。広義には、香北町全体に住む 4000 人ほどの住民、および高知工科大学に通う学生や、県外や私の住むオランダや近隣諸国でプロジェクトに興味を持ってくださる方々のためにもつくりたい。

にろうの



このプロジェクトの視点として、①不耕作地の田んぼや畑、②古民家、③山林、④人の繋がりと健康の4つがあり、それらを複合的・連携的に蘇生させてゆきます。

田んぼの再生については、昨年7月に野本佳鈴氏(EM親善大使)の指導のもと田んぼに結界を張り、今年2月には前原幸太郎氏(宮崎県のEM篤農家)の指導を受けボカシ作りを行い、整地等に取り組みました。また、現地の仲間である高橋恵美さんの尽力により、田植えに向けて準備を進めています。今年度はEMグラビトン農法により田んぼを再生することを目標とし、U-netの助成金はこれに特化して使用させていただきます。

古民家再生については、建築士の川島卓氏をリーダーとして、高知工科大学古民家サークルWavertに測量等の実地ワークを体験してもらいながら、母屋と離れ二軒の耐震診断、耐震改修設計を行いました。今後は、EM技術等を導入しつつ、出来るだけ今の古民家の形を残していく方向で、山林・田畑などの環境の中でいかに地域に開かれ活用される自立型のエコハウスに改修するための設計プランを作ってゆきます。

山林再生については、数年前に山林所有状況調査を行った際、森林組合に勤めていた方から山林の所有者が細かく分散されている実態を教えてくださいました。今後は山林の実地調査を行い、山林、田畑、古民家全てを視野に入れどう未来に活用するかを学生コンペを開催し、再生プロジェクトの見通しをつけることを考えています。

仲間さがしについては、プロジェクト発案時からの仲間であり現地コーディネータ兼プロジェクトデザイナーの濱田竜也氏を通じて、川島卓氏(建築士)や高知大学の学生さん達と繋がり、EM技術を通じて高橋恵美さんと出会い、コアのチームが固まりました。現在、舞台美術家、水のプロフェッショナル、自伐林業を志す方、面白いことが好きな地元の方、大学生、小学生とその親たち、農家さん、起業家の方、市議会議員さん、大工さん、など色々な方に興味を持ってもらいつつあります。このつながりを大切にどんどん色々な方を巻き込んで、プロジェクトの価値観を共有しつつ、共創してゆきたいと考えています。

また、オランダで行っている芸術活動、脳幹セラピーによる健康メンテナンス、農業やアートに関わって頂く会員制コミュニティの構築などを通じて、「めぐる蕪生プロジェクト」とオランダでの活動を結び付け、同プロジェクトの価値観を、国境を越えて共有していくことを考えています。

最後に、コロナ騒ぎの起こる前の2019年の夏、蕪生野に滞在した際に山の上に昇る大きな満月を見ました。その満月の下で子供や大人が舞台を鑑賞しているイメージが湧き上がり、ふと涙が出るということがありました。昨日、そのイメージを絵にしてみました。舞台を観賞する機会を創ることを夢に描きながら、このプロジェクトを遂行していきます。



「水稻における塩を用いた雑草対策とEM グラビトン農法の確立に向けて」

紀州 EM ひろば 代表 山路 誠二

紀州 EM ひろばは、尾鷲市内を流れる北川の浄化運動をきっかけに活動を始めました。2000 年当時の北川は、近隣の生活排水が流れ込み富栄養化が進み、川底はヘドロに覆われて、悪臭を放って、魚が棲めない川になっていました。そこで、市内の高校生と婦人会が立ち上がり、北川の浄化活動が始まりました。各家庭から EM を投入することを始めて半年後、川には雑草が生えて緑で覆われる様になりました。こんなことは初めてで、川底をよく観察してみると、藻がたくさん生えて来て、それが生長して長くなると、ポカンと水面に浮いて下流の方に流れていきました。そして、藻が浮いた場所の川底を見るとヘドロがなくなり砂地になっていました。この現象が続いて、ヘドロはどんどん減ってゆき、悪臭も減ってゆきました。今では、アユも遡上する綺麗な川になっています。



紀州 EM ひろばの活動は今年で 22 年目を迎えます。コロナで活動を自粛していましたが、7 月から EM 生活講習会を再開し、EM の普及に力を入れてゆきます。

さらに、紀州 EM ひろばの活動はこれからが正念場で、コミュニティの基礎となる食の問題に全力で取り組んでゆきます。皆さんはご存知ですか？現在の日本の自給率は 37%で、残りの 63%は海外からの輸入となり、実に危険な状態になっています。そして、37%の食の生産を支えているのは化学肥料や農薬を使う慣行農法です。自然農法や有機農法は実に 0.5%しかありません。昨年度から化学肥料の高騰が続いており、かなりの品不足になっています。加えてロシア・ウクライナ戦争が長引き、もしも、来年から化学肥料が出回らなくなると、およそ 6 割の生産量が減ると言われています。そう考えると、我が国の自給率も 15%前後に低くなると予測されます。加えて異常気象などで、世界各地で飢饉が起きると、日本の食料供給はどうなるでしょうか？全く先が読めない状況となっています。

そこで、私は比嘉先生の EM グラビトン農法こそ世界を救う農法だと思っています。未来の子どもたちのために化学肥料・殺虫剤・除草剤は使わずに、EM グラビトン農法の確立を目指してゆき、本物の野菜、お米を届ける技術を確立したいと考えています。



実は 2010 年当時、比嘉先生が尾鷲湾や引本浦をきれいにするためには、海に流れ込む水に EM が増えればいいので、上で EM を使って田んぼをすればいいんだよという話をされました。それで、私がどれくらいの広さの水田をすればよいですか？と比嘉先生にお尋ねしたら、5 町歩もやればよいとお答えを頂きました。そこで、私は一念発起して、私は稲作を全くやったことがなかったのですが、なぜか運良く 1 町歩の田んぼを授かりましたので、そこで稲作を始めました。この地域はイノシシやシカがいっぱいいて、動物園の中でお米を作っている様なもので、稲が育って来た頃にはイノシシが入って来てぐちゃぐちゃにして、収穫できないということが何度もありました。この地域は国の予算で鉄のフェンスを張って獣害対策に取り組んでいましたが、イノシシはフェンスの下からフェンスを押し上げて入って来て、農作物を荒らすということがあって、なかなか防ぎきれませんでした。2017 年に比嘉先生から整流技術を教えて頂いて、当時はペットボトルに活性液を入れて使っていましたが、今は最新 EM 技術を活用して発酵ポットとかウォールポールを自分たちで作って、それに切り替えています、イノシシやシカの被害は出なくなりました。

このように獣害は整流技術で解決したのですが、もうひとつ自然農法の大きな問題が雑草です。毎年続く雑草との飽くなき戦いです。雑草対策に失敗するとコナギがたくさん生えて、養分をコナギに取られて稲が育たなくなりますので、田んぼに入って朝から晩まで雑草を取るということをしていました。これがなけれ

ば、誰にでもできる自然農法になります。近隣の農家さんも雑草さえなければ自然農法をやりたいという人がたくさんいます。

そこで、2022年、雑草との戦いに終止符を打つぞと思いきや、塩を用いた雑草対策とEMグラビトン農法の確立に取り組むことを決心しました。比嘉先生がお話しされている塩を活用した雑草対策です。1つの例として津市にある粘質土の田んぼで、1年に反当たり、塩を3トン、活性液も3トン入れることによって、翌年から雑草が一本も生えない雑草対策に見事に成功した田んぼがあります。私もそれを見習って、反当たり1トンの塩を入れて雑草対策をしたことがありましたが、雑草は完全にはなくなりませんでした。これは、私の田んぼが砂質土なのが原因なのかと思い、一度ここでドカンと塩を入れてみようと思いました。今回のプロジェクトでは反当たり3トンの塩を入れる田んぼと2トンの塩を入れる田んぼを作って、塩による雑草対策の実証試験をしています。3トンを入れた田んぼでは、塩をまいた後は雪が降った様に真っ白になります。近隣の農家さんには「そんなことしていいの、稲が育たないぞ」と心配して言われることもあります。実験なのでと皆さんにはお話しています。5月7日に塩をまいた田んぼで田植えをしました。今のところ、塩害は出ていません。この実証実験の写真やデータはとってゆきますので、また、別の機会に発表させて頂きたいと思っております。

私たちはコミュニティの基礎である農業を今こそ真剣に見直していかなければならないと考え、EMを活用した自然農法＝EMグラビトン農法を実践して、真の健康と人々の喜びの音が響きわたる世界を実現し、野の幸と海の幸が豊かな世界を実現します。



「未来子育て環境を創造するグラビトン農法と、遊び・食育・共育の親子青空保育 きりんガーデン」
一般社団法人 MOMO CO-CREATION 代表 土居 桃子

私が住んでいる高知県は、離婚率、一人親世帯、低賃金、貧困生活保護、飲酒費などが全国一位です。また、人口に対する中学校数が多いのですが、不登校は全国第2位です。最近では、コロナ禍でコミュニケーションの断裂による鬱、自殺などの相談も増えており、支援の必要な発達障害を抱えている子供が20年間で8倍、25年間で11倍と言われるくらい増えているという現状があります。私は、地域と共存共生したいと思っているけれども、生きづらさを抱えた親子や、そこに関わる保育者を対象にコミュニティーが必要だと感じています。

わたくし自身、長年保育士をしている事もあり、子育てについての様々な活動を行ってきました。現在は、子供の絵を聴くひと育成プランというのを立ち上げていて、子供たちの描く絵を通して、絵を描いた子供たちが体験した生活体験を聴き、子供たちの自己肯定感、表現力、認識力の育ちを絵として引き出す、「聴く人」を育てるという活動を行っています。この活動は、高知県ビジネスプランコンテストで採択されました。



また、子育てママを笑顔にするため、安全な食、安心な環境、癒しの場、仲間づくりを目指して、アートとイートで未来子育て環境を整えようということで、FFC 高知としても活動を行っています。主に地域での紙芝居づくりやお話し会、講習会などを開催し、子育てママと子育てママを支援する人たちを繋げる活動も行っています。



2020年12月に沖縄で比嘉先生の講演会をきいた際、最後に比嘉先生が仰っていた「自分の食べるものは自分で作る力を育てましょう」という言葉と、「子供たちに自己肯定感を育む」という私の使命とが繋がりました。この講演会で私は比嘉先生から野本ちづこさんの「微生物さんのパワーを引き出すのはあなた」という本を紹介して頂きました。沖縄から戻ってすぐ、訪ねてこられた愛媛の方に誘われて本の著者である野本さんにお会いする事が出来ました。それから野本さんよりEMの活用方法などたくさんの事を学ぶことが出来ました。現在は、野本さんと共にコロナの影響で全国に行けない分、ZOOM講座をしています。ZOOM講座では、無煙炭化器で炭づくり、慣行農業とグラビトン農法との違いなどの講座をしています。私自身はユーチューバーもしてまして、米のとぎ汁EM発酵液の作り方、EMプリン石けんの作り方、EM団子の作り方、整流ブロックの作り方などを発信しながら、自分がまずは使ってみる、行動してみるというのが一番だと感じています。

私はこれまでの活動のなかで、子供たちの自己肯定感を育むのには自然体験こそが大事だと感じています。というのも、子供たちと一年間色んな活動、例えば運動会、演劇などを一緒に行ったのですが、ある子に「一年で一番記憶に残っている事は？」と聞くと、「タケノコ掘り！」という回答でした。作り上げられたものより自然体験が心を豊かにするのだなと少し敗北を感じた経験があります。そうした、子供たちの自然体験が出来る場所として、一軒家を借りユニバーサルビレッジITOという施設と、耕作放棄地をきりんガーデンと名前をつけて遊びと栽培ができる場所を作り始めました。きりんガーデンはEMを活用して土壌改良を開始しています。土地には、シェア畑や展望台を作り、訪れた親子が自然の中で自分の好きな遊びをするという施設にしたいと思っています。



今後、活動を自立させていくためにもフリースクールの併設、ユニバーサルビレッジITOの運営とで4年後の完成を目指しています。親子が遊びながら学び育つグラビトン農法での共育プログラムの実施、提供を行っていきたいと思っています。

「命輝け！日本の心と農的文化 ～みんなで働き・遊び・学ぶ進化ビレッジ～」

アムリタファーム 代表 齋藤 則高 おかみ 齋藤 麻恵

わが国の状況は困難に瀕していると日々感じています。私たちの農場を訪れるお客様にしても、心も体もぼろぼろの方が多いため、根源は何かなところを見つめてみたところ、心が大事だと実感しています。私自身、インドを旅した時に、聖者様に健全な心を作るには健全な食べ物、そして、環境が大切であると教えて頂きました。私たちは、愛と感謝と調和を軸に本来の人間性を取り戻す体験ができる場を提供したいと思いユニバーサルビレッジモデルづくりに提案しました。

私たちは、新規就農して9年目となります。荒れた農地を開墾して今に至るのですが、その時にすでに世の中に何かしたいという事で模索し、今のプランにたどり着きました。

私たちが、どういふ農業をしているかという事をご紹介し、プロジェクトに繋がっていくお話をしたいと思います。私たちは農業をするとは思っていませんでしたが、現在、北海道ニセコ町にある農場でトマトを中心とした農業を営んでおります。食は心と密接に繋がりに影響するという学びをインドの聖者様から頂きまして、元気で良い食べ物を作り、みなさんの心と体のために貢献したいという思いで2014年4月に新規就農しました。栽培しているトマトは、塩トマトといって、塩を使ってトマトを育て、糖度や酸味、旨味を高めたトマトを栽培しています。農場では波動学やEMを取り入れた有機栽培を行なっていて、もちろん農薬は不使用です。北海道ですので、冬は雪に覆われて栽培は不可能ですが、少しずつ開墾しながら農地を広げてきました。ハウスは1棟から始まり、今は栽培ハウスが6棟、拠点・休憩スペースとして利用しているハウスが1棟、さらに、畑作用、カボチャなどが植えられる場所として1棟準備している段階です。アムリタファームは敷地が6町歩あり、開墾が済んでいる場所はまだまだわずかです。今後、ユニバーサルビレッジとして土地を活用してゆきたいと思ひます。



アムリタファームのEMを活用した農業ですが、当農場では江本勝先生の「水は答えを知っている」という本が教科書となっています。研修を受ける方も、スタッフもまずはこの本で学んで頂いて、目に見えない影響について知覚的に学んで頂いています。実際にトマトと接する時も一人オーリングを使ってトマトと対話しています。具体的には、肥料はどのくらい必要？、どんな肥料が必要？、お水はどれくらい必要？、何をしたいの？といった質問をトマトに投げかけ、対話しながら育てています。また、微生物は水が大切なので敷地の裏から湧いている天然水を池に貯めてEMを入れてあります。池の水は自作のろ過装置(オーリングなどで選んだ波動鉱石)を通し、EMの液肥と混ぜてトマトや作物に供給しています。EMを使った液肥やボカシは皆で真心こめて作っています。そんなボカシや液肥で作った作物はピカピカと輝いていますし、そうした野菜は農場にいらっしゃるお客様に配っています。

科学的なデータを視覚的に残すことも必要だと感じていて、栽培したトマトの分析を日本食品分析センターで行っています。私たちの塩トマトと普通にスーパーで売られているトマトを比較したところ、私たちのトマトは糖度やリコピン、アミノ酸などの数値が高くなっていました。私たちのトマトは出荷の際、全てのトマトの糖度を測定していますが、平均糖度は8から10度です。去年はすごく高い糖度の数値が出まして17.6度でした。この数値は、スイカの糖度が12度くらいで、高級メロンが17度くらいなのでメロンと同じような糖度となっています。また、トマトが人体にどのような影響を及ぼすのかを波動測定器を用いて測定も行っています。



現在まで、農業を行う中でいくつかの試みも行ってきました。農場に直接来られるお客様の中に農業見学や農業体験がしたいという声を多く頂くようになりましたので、作業をしながら子供と一緒に働ける場所としてアムリタ幼稚園やアムリタ学校を始めました。そこでは、子育てサークル、フリースクールのような要素も取り入れながら、農場で体験し、学ぶことを進めています。この活動を通して、親の仕事場と子供の学び、遊びの場が一緒というのは双方の精神発達に有意義な効果があると感じています。現在は、コロナの影響で学校は中断していますが、現在も場所としては開放していて、来てくれる子供やお母さんたちと遊ぶ、作業するという事を行っています。



私たちの農場には、ただ遊びに、ただ休みに来る方が増えています。元気に育っている作物を無償で提供するコーナーも作り始めました。そういった活動の中で、こういった研修会をしてほしい、こんな講演会をしてほしいという声も少しずつ頂けるようになりました。2018年に徳島県の河野メリクロンという蘭を扱っている会社で講演会をさせていただいた時に、参加者の方からU-netのを知り、入会しました。

今年、特に力を入れて取り組みたいと思っているのは、需要が高まっている宿泊施設、滞在施設をすることです。EMを活用した建物を自分たちの手で作りながら、みんなで参加しながら、EMを体験、学ぶ場にしていきたいと思っています。宿泊施設が出来たら、お料理をするスペース、カフェスペースなどを作り、EMを使った農業をしたい人が増えてくると思いますのでレンタルの栽培ハウスを準備できるように開墾をしていきたいと思っています。こうしたEMを使った環境の中でみんなが癒され、遊んだりしながら、本来持っている人間性を豊かにすること、それを思い出してもらおう事、体験を機に自分の家や自分の住んでいるスペースに戻った時に、学んだことや体験を活用して頂くことを目指して、進化プロジェクトを行ってゆきたいと思っています。もちろん、アマリタ学校、幼稚園を復活させ、みんなで手を取り合って進化してゆきたいと思っています。いつでも、農場に遊びに来て頂き、手も口も出していただければと思います。

こうした施設が必要なのは、情報社会になって、リアルな体験が不足しているからで、農場に来られる方が人と自然と接する時の表情、体験後に帰る際の顔が晴れ晴れとしている、そんな場所を提供してゆきたいと思っています。一人一人わずかでもいいので、自分で食料を生産できる、野菜を作れるお手伝いをしたいと思っています。EMの力を借りて、意識、波動の伝達を行っていくと、地球も豊かになっていくと思います。私たちの活動は愛、感謝、調和をキーワードに体験して、日常の生活の場で実践していただき、一人一人が豊かになってほしいと思います。EM技術はもちろん、精神性を学んで共に発展させ、世界に広げていければと思っています。EMと接する事で大切なこと、一人一人の在り方、意識に応じて微生物が喜んで働いてくれるということに気づきました。意識を持って暮らすというのがこれからのカギになると思っています。

「森の学校つくも」

森の学校つくも EM 担当 萬谷 正樹

二年前ですが、自然と触れ合う機会が少なくなった昨今の子供たちに、自然の中で自由に自主的に安全に遊び、生き物たちに触れ合い自然の生態系を学ぶ場を提供してあげたいとの思いから、森の学校を作ろうということになりました。また、白鳥監督の映画「蘇生Ⅱ」の上映会がきっかけで、微生物の働きにみんなが興味を持ち、森の学校でも是非EMを活用したいので教えてほしいとの要望がありました。これが、森の学校とEMが関わるきっかけとなりました。その後、沖縄を訪問し、比嘉教授の青空宮殿やサンシャインファームでEMについてみんなで学ばせて頂きました。

比嘉教授の書籍や野本さんの書籍も仲間で回覧し勉強をしています。15年前に購入し、池の浄化や稲作に利用してきた百倍利器ですが、森の学校でもフル活用されています。ペットボトルに小分けにされた活性液を、皆さんが購入し各家庭で利用されるようになったことから、森の学校の資金源の一つとなっています。

森の学校つくもは、神戸市の六甲山系の北側に位置します。敷地面積は約3,000坪で、元は耕作放棄地の田んぼや畑や山で、人が入れない荒れた竹林でした。それを、20名のボランティアで竹林を切り拓き、無煙炭化器で竹炭を作ったりしました。沢があり、ぬかるんでいることから、排水溝を作ったりもしました。サワガニもたくさんおり、自然が豊かです。車の通れる道が無かったので道路づくりを行い、やっと軽自動



車が通れるようになりました。切った竹を利用してスタードームも建設しました。ドームの中心の地面には、穴を掘り、EM グラビトロン炭と塩と EM 活性液を投入しています。また、床下には EM セラミックスも撒いています。田んぼや畑の土壌改良や販売もかねて、EM ボカシづくりや EM 団子づくりも行っています。EM 団子は沢に周辺の浄化用にも利用されています。

森の学校では 3 歳～12 歳の子供たちが中心ですが、好きなように自由に遊びます。森の中なので、スズメバチやマムシもいますが、子供たちは遊びを通じて自分たちの身を守ることを学びます。EM をスプレーして遊ぶ子もいれば、EM をかき混ぜてそらじゅうを EM だらけにして遊んでいる子もいます。

木から吊り下げたブランコも作りましたが、全ては子供たちのアイデアで、大人は少しサポートするだけです。不登校だった小学 4 年生の子がまた学校に行きはじめたという嬉しい話もあります。

お陰様で、今年の 4 月 11 日に開校することができました。森の学校つくもの活動については、Facebook に詳しく掲載されていますので、ご覧頂けたらと思います。また、森や小川を散策するピクニックは月に一度開催予定ですので、是非ご参加下さい。



「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

皆さん、素晴らしい発表ありがとうございました。今日の 6 題の発表を聞いて、私が一番勉強した感じでした。今回の皆さんが連携すれば、世の中がすぐ変わる、とそういう期待をして聴いていました。

EM の事業化から社会化に取り組む上での一番大事なポイントは、良質の EM 活性液を用意することです。EM 活性液の仕込みで、塩を 1～3.5%濃度にして、変質しない EM 活性液を作り、活用することがポイントです。そうすることで、皆さんの EM 技術レベルを上げることができます。

量子力学的にみると、EM グラビトロン炭や、無煙炭化器で作った整流炭に良質の EM 活性液を散布してハイレベルにした EM 整流炭を使って結界をきちんと作るということは、この中に入ってくるエネルギーが、バレー流やスピン流といった素粒子のエネルギーを変換する力が付与され、万能のエネルギーが結界内に取り込めるといことです。この結界のレベルを上げていくと、2-3 倍に生産力が上がったたり、あるいは、そこで働いていると健康になる(疲れにくい)場が形成されます。

EM 技術の中では、塩はミネラルの供給源にもなり、除草剤的にも使える資材です。EM を使い微生物が豊かになっていると、塩害を起こさずに、塩が原子転換され、土壌改良やミネラル供給源として活用できます。雑草対策等で、最初に塩を使う場合は量が多い方がいいのですが、最後は少量でも良く、日々の管理で使う EM 活性液に入っている塩だけでも良い働きをします。また、無煙炭化器で作った炭に EM グラビトロン炭を少し足して、波動を上げて、しっかりと結界を作り、植物の生育が悪いところに炭と EM をまいて使うと植物の状態はすぐ変わってきます。量子の世界は扱い方の水準次第なので、実際には無限大の可能性がります。このことを意識して、EM 活用の原点をおさえながら取り組んでください。

一方で、お祈りの世界も重要で、すなわち、想念の管理なのですが、EM を使い、畑や田圃の微生物が働くように、EM 讃詞(想念)を活用することも重要です。EM 活性液を作る時にも同様に、EM 讃詞を活用す

ると、良質なEM活性液ができます。量子の基本が重力波なので、重力波、(それが良い循環をするように)善循環、蘇生を三回繰り返すことがポイントです。EM讃詞は、回数が多い方が、量子力学でいうところの重ね効果になります。1回やったから良いというのではなく、人間が努力したらパワフルになることと同様です。EMも回数多く使うことで、微生物が住み着きやすくなり、畑の状態が変わってきます。

杉本先生のクリニックでの電気代 25%削減はすごい報告です。MRI等の検査機器は多くの電力を使いますが、使えていないエネルギーが良いエネルギーに変換される等、EMを使うことで環境中のエネルギーが変わる原理と同様と考えています。

真の健康を考えると、本当は、EM栽培や自然農産物等の良いものを食することが重要で、真から力をもった作物を食べることが大切です。しかしながら、今の時代、食生活や食品業界のスタイルが変わってきていてレトルト食品や冷凍食品を食べることが増えています。緊急措置として、野本さんの本では電子レンジとEM技術の活用法を紹介しています。EM運動の基本は、「地球を救う大変革」の中でも説明していますが、どんな技術でもEMと組み合わせると限界突破的になるので、EMはあらゆるシステムや技術と組み合わせることができます。例えば水耕栽培システムにEM技術を組み合わせると、システムを動かす上での無駄なことが分かるようになります。

杉本先生のところは医療の分野からEM技術を活用し、ポイントをおさえてきているので、医療分野から未来のあるべき方向を総合的にまとめることができると確信しています。杉本先生はEMの威力を知っているので、医者はどうしたらよいのか、人生の指導者としての役割があることを意識して取り組んで頂きたいと思います。このプロジェクトの成果が、皆さんに良い情報を発信できるものと思っています。

濱野さんのプロジェクトは、基本の形はできています。古民家再生については、建物は生物情報が重なるとその耐久性や住み心地が改善され、長く活用できるようになります。これまでの事例から、EMコンクリートは1000年もつと言われており、海外の大学でもEMコンクリートの効果が確認されています。古い建物は、床下や屋根、壁など、あらゆるところをEMで年4回くらい洗浄し、建物に生物情報が付着すると、建物自体が年々新しくなっていきます。EMの遺伝子をいっぱい付着させると、建物が空間のエネルギーを取り込めるようになり、古民家を長く活用することが可能となります。マレーシアのジョホール州では、約1300戸の住宅建設でEMが活用された実績があり、国内外での建築へのEM応用例はたくさんあります。また、このプロジェクトの各方面での連携システムのあり方は素晴らしく、議論に惑わされることなく、目標に向かうためには次はどの段階に取り組むかを話し合っ進めてほしいと思います。

山路さんの水稲での雑草対策ですが、実際は塩の活用で成功している報告は多く届いています。最近の情勢で、肥料が高くなっているの、塩や海水を使って代用するというのは、農業改革を根本から推進するチャレンジ的な取り組みです。雑草を抑えるだけなら、EMを上手に使う方法もありますが、塩を使っ雑草対策だと、次作からの対策も楽にできます。一方で、考え方を変え、稲作だけでなく二毛作にする等、次の展開を考えたチャレンジにつながると期待しています。稲を収穫して、11月頃に田圃を耕さずに、細かく切った稲わらを敷いて雑草が生えないように覆い、麦を植える。その後、麦収穫の前に種モミを直播して、麦わらを敷いてEM散布して稲を栽培します。肥料が足りないところや、雑草の多いところには塩とEMを追加します。

他の地域でも、休耕地を探して回復させようとしています。採算的に大変です。耕さずに、直播で二毛作にできれば、苗を作る必要もなく、こうしたチャレンジすることで、日本や世界の食糧生産を解決できる可能性を秘めています。このような農場が増えると、周辺の河川や下流の海がきれいになり、生産者や消費者の健康にも寄与できます。EM栽培を通して、土壌に光合成細菌が多くなると、そこで生産された農産物のLPS(リポポリサッカライド:免疫ビタミン)含有量が高くなり、LPSの高い作物は、病気に強く、免疫ビタミンの高い農産物となります。日本中の農作物が、EM栽培に徹すれば、健康に良いお米がとれ、食料問題

も解決でき、水田が環境を保全することにもつながるので、EM 栽培の米作りの重要性を心得て、取組んでほしいと思います。

土居さんのきりんガーデンは、実質は内容が仕上がっているプログラムとなっています。野菜栽培等、従来の方法に EM を使ってということでしたが、従来の方法の中で面倒なところに固執することなく、EM を上手に使って、例えば、有機物を畑にまいて、EM を上から散布することで、有機物が畑で自然と発酵分解されるので、資源循環がスムーズに動く仕組み作りに取り組んでみるのが良いと思います。また、高知県の問題は、沖縄県の問題と同様ですが、多くの方があらゆる場面で EM を使うと、沖縄県と同じような雰囲気の問題が作れます。EM を広く活用することで、地震等の災害対策にも活用できるので、多くの方を巻き込みながら、あらゆる場面で EM が多く使われることを期待しています。また、土居さんは野本さんのアシスタントとして全国を周ることで、今後の技術の積み上げができるかと確信しています。情報発信を行い、新しい情報を得たら、この新しい方法や良いことをすぐに取り入れて実行していくことで、EM 力が短期間で蓄積されるので今後の動きを楽しみにしています。

アマリタファームの齋藤さんご夫妻は、私の盟友でもあった「水からの伝言」の江本さんの情報と EM を活用しながら農業に取り組まれています。江本さんは目に見えない世界、要するに量子の世界を科学する世界の第一歩を踏み出したという評価をしています。江本さんは、EM で水を処理すると、水の結晶にカラーが出て来ることなどを報告してくれました。みんな、宇宙のことや目に見えない部分をなんとなく感知はしているのですが、齋藤さん達のように継続して取り組んでいくと目に見えない部分が見えて来きます。こう言った重ね効果がすごいわけで、それを重ねてゆくことは芸術の様なもので、教育や学校、保育園を含めて、社会にそれを織り込んでいくということで、よくここまで素晴らしい形につくり上げたなと思って聞いていました。これからさらに EM 技術を活用、実践を重ねることで、素晴らしい活動となっていくことを期待しています。

森の学校つくもの萬谷さんらは、地域の竹林を開墾して、社会的資産として働くようにしています。このような取り組みは、行政がどんな施設をつくるよりも、社会的資産としての役割を果たすことが大きいものです。EM で楽しみながら、参加する人たち自身も元気になりながら、陰徳を重ねながら、素人でもできる EM 農業を実践して欲しいと思います。従来の農業にとらわれず、2~3年 EM で取り組んだら、食料問題が解決できるという自信につながります。DNDの第178回(2022年5月)にEM研究機構の若手職員の取組みを紹介していますので、この情報を活用し、皆さんで楽しく取り組んでいただければと思います。

今日の皆さんの考え方と情報を共有、連携して情報発信すると、EM はどんどんと進化しますし、EM を実践される皆さんのレベルも上がり、その成果は波及して世の中はすぐ変わることを確信しています。

EM の成果は、取り組んだ人のレベル次第で、新しいクリエイティブなことを生みだします。これからの皆さまの活動報告が楽しみで、期待しています。

★令和4年第2回 EM 技術セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内 (会員様限定)

5月13日に開催されました第2回 EM 技術セミナーでの発表の様子をまとめたダイジェスト版動画を配信期間中、インターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、お好きな時間に視聴できます。

【配信期間】 6月17日(金)の朝9時~6月20日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は **6月13日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局 (info@unet.or.jp) へメールにてご連絡をください。

視聴用 URL は 6月16日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

— 事務局からのお知らせ —

比嘉照夫理事長が瑞宝中綬章を受章

本会の理事長で、琉球大学名誉教授の比嘉照夫博士が令和4年4月29日、「春の叙勲」にて、「瑞宝中綬章」を受賞されました。瑞宝中綬章は、国家又は公共に対し功労があり、公務等に長年にわたり従事し成績を挙げた方に対し授与される勲章です。

長年のご功績に対する、栄えあるご受勲、心からお祝い申し上げます。

第3回 EM 技術セミナー開催のお知らせ

第3回 EM 技術セミナーを2022年7月1日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は6月1日(水)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始します。お申込み専用ページからウェビナー登録頂きますようお願い申し上げます。お申込みの締め切りは6月30日(木)です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※ 第3回 EM 技術セミナーはU-net 会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時ご記入頂くお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない場合がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名をお名前に追記し、ご登録頂きます様お願い申し上げます。

例) 姓 名

ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net 事務局にお問合せ下さい。

書籍の販売について

比嘉理事長が必読書として講演会等でご紹介されている書籍「愛と微生物のすべて」と「日本の真髓」を会員の方に送料無料で販売します。また、お持ちでない方はこの機会にご購入ください。

すでにお持ちの方は、ご友人、知人への贈り物、紹介用にご活用ください。

お得な会員価格は以下の通りです。

・『愛と微生物のすべて』 ヒカルランド発行 会員価格 1,800円(消費税込み)

・『日本の真髓』 文芸アカデミー発行 会員価格 1,500円(消費税込み)

なお、事務局の在庫がなくなり次第、販売は終了いたしますのでご了承下さい。

購入ご希望の方は、メール又はファックスにてU-net 事務局までご連絡ください。

【U-net 事務局連絡先】 Email:info@unet.or.jp Fax:03-6450-1195